

## ロータリー希望の風奨学金

—— 支援はまだ折り返し点。私たちは希望をつなぎます

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会 会長 地葉 新司 (湯上RC)

### はじめに

新型コロナウイルスの国内感染者が発生してから、はや2年半以上がたちました。時の経過の早さを実感していますが、「ロータリー希望の風奨学金」のプログラムも開始から11年。ご支援くださる皆さまのおかげでここまでつなぐことができました。

ロータリー希望の風奨学金は、2011年3月11日に発生した東日本大震災によって、両親もしくはひとり親を亡くした被災遺児を対象としております。大学（短期大学を含む）や専門学校で学ぶ者に、入学から卒業まで毎月5万円を給付し、返還を求めない奨学金です。

震災当時、0歳だった子も対象としているため、その子が4年制の大学を卒業するとして、最短で22年間続くプログラムです。現在はまさに折り返し点。ここで終わりではなく、まだ10年以上続く事業です。皆さまからのご支援を、引き続き心より願っております。

昨年3月には震災後10年が経過したのを機に、改めて当時を振り返りながら『希望の風 ロータリー希望の風奨学金10年のあゆみ』（写真）を刊行しました。すでに日を通された方も多いと思いますが、まだご覧になっておられない方は、当会のウェブで公開しておりますので、下記のURL、または「ロータリー希望の風奨学金」と入力し、検索していただければと思います。

URL：  
kibounokaze.com



### 「ロータリー希望の風奨学金」の概要

この奨学金はロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会の運営する教育支援プログラムです。まずはその概要について、ご紹介します。

#### 奨学生の条件：

東日本大震災で両親もしくはひとり親を亡くした「遺児」で大学（短大を含む）、専門学校に学ぶ者。

#### 奨学金の給付：

入学から卒業まで毎月5万円を継続して給付し、返還を求めない。

#### 申請から登録まで：

①被災各県高等学校・遺児家族・本人から、在籍高等学校の推薦状と共に申請を行う。資格審査（書類

確認）の上、遺児には「奨学金給付者名簿登録済み」と「進学後に必要な手続き」を、推薦学校宛てには「給付決定の通知」と「推薦に対するお礼状」を送付する。  
②申請者が既に大学や専門学校に入学している場合は、被災遺児であることが確認できる書類と在学先の推薦状を添えて申請を行う。資格審査の上、前項と同様の手続きとする。

#### 奨学金給付開始：

大学・専門学校入学と同時に、在学証明書を当協議会に送付してもらい、入学を確認後、奨学金の給付を開始する。

#### 後のフォロー：

奨学生が進級するごとに在学証明書を提出してもらおう。留年や停学、退学の報告を受けたとき、または在学証明が更新できないときは給付を停止する。

## 1) 奨学生の実態報告

奨学生には、毎年4月の進級時に新年度の在学証明書の提出を求めています。4月分からの奨学金は新規の在学証明書が提出されてから送金しています。提出がない場合は送金されません。また、この春、高校を卒業し、新たに大学生、専門学校生になった新入生にも進学先の在学証明書の提出をお願いし、入学を確認した後、送金を開始しています。

21年7月1日から22年6月30日までの1年間(第12期)の奨学生は168人でした。また、11年12月のプログラム開始以来の奨学生の総数は541人です。このうち22年3月末までに卒業した奨学生は319人でした。そして、22年4～6月までに新たに入学を確認した奨学生は25人。21年7月1日現在の奨学生は116人です。(資料1)

### (資料1) 21 - 22年度(第12期) 給付奨学生の状況

22年6月30日現在

前年度からの継続者	141
新規給付者	25
復学者	2
<b>21 - 22年度内支給者総数</b>	<b>168</b>
21年8月あるいは22年3月卒業生	36
退学による停止者	0
休学による終了者	0
留年による停止者	0
在学証明書未提出による停止者(注)	16
<b>次年度への継続者</b>	<b>116</b>

注) 新たな在学証明書が未提出で進級を確認できない場合は、振り込みを停止します。

## 2) 支援金ならびに奨学金の実績報告

開始時の資金と11年12月から22年6月30日(12期末)までの支援金は10億6,672万円となります(資料2)。

また、21年7月1日～22年6月30日までの1年間に給付した支援金は、168人の奨学生に対し、総額7,950万円となっています(次ページ資料3)。

今後の対応として、昨年9月号の『ロータリーの友』

## (資料2) 地区別支援金実績

22年6月30日現在

(単位:円)

地区および団体・個人	第12期 21年7月～ 22年6月	開始時資金 + 支援金 合計
D-2650* (福井・京都・奈良・滋賀)	15,597,419	296,827,819
D-2580(東京・沖縄)*	12,495,921	201,902,764
日台ロータリー 親善会議		125,339,917
D-2790(千葉)*	3,190,551	80,875,447
D-2570(埼玉西部)*	4,176,042	76,088,363
D-2760(愛知)*	3,641,078	66,468,494
D-2710(広島・山口)*	500,000	53,496,688
D-2720(熊本・大分)*	1,102,175	35,964,299
D-2590* (神奈川 横浜・川崎)	450,000	32,342,312
D-2630(岐阜・三重)*	1,000,000	25,109,625
D-2750 (東京・ Guam・北マリアナ諸島・ パラオ・ミクロネシア)		15,911,733
D-2540(秋田)*	684,000	15,398,019
米国・個人・台湾・団体	73,000	8,177,013
D-2820(茨城)	53,236	8,093,746
D-2620(静岡・山梨)	10,000	3,663,271
D-2610(石川・富山)		3,037,268
D-2550(栃木)	113,000	2,981,501
D-2690(岡山・島根・鳥取)	20,000	2,246,714
D-2640(大阪・和歌山)		2,197,021
D-2800(山形)		1,912,330
D-3340(タイ)		1,765,192
D-2670 (愛媛・香川・高知・徳島)		1,300,000
D-2780(神奈川)	11,000	1,181,000
D-2770(埼玉南東部)		1,100,000
D-2510(北海道西部)		1,050,000
D-2700(福岡・長崎・佐賀)	712,000	712,000
D-9710(オーストラリア)		700,000
D-2530(福島)	30,000	424,000
D-2830(青森)		220,000
D-2730(鹿児島・宮崎)		165,000
D-2740(長崎・佐賀)		75,860
<b>計</b>	<b>43,859,422</b>	<b>1,066,727,396</b>

\*印はプログラム開始時からの参加地区です。

でもお伝えした時と同様に、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の年度別出生数と年度別奨学生比率から奨学生数を予想で算出すると、今後の奨学生数は1,050人。必要となる金額は、推定ですが6億2,090万円となります。22年6月30日（12期末）の支援金残高2億5,610万円を差し引いても、今後必要とする支援金は3億6,480万円となり、毎年3,316万円が必要です（資料4）。寄せられる支援金は、ここ5年ほどは毎年4,000万円台となっており、現在の状況を堅持できれば、問題なく23期まで続け、終了することができます。

### 3) 今後の見通しについて

ただし、仮に資金が枯渇すると想定すれば、奨学金の給付を終了するか、給付額を減額するかを判断しなければなりません。

給付をやめる場合、奨学生全員に「来月から5万円の送金はできません」とは言えません。資金の枯渇が予想される場合は、その年の4月に入学した大学生が卒業するまでの4年間は、責任を持って月額5万円を続けなければならないと考えています。それから、次年度の奨学生の新規募集を停止することになります。

減額の場合は、新規奨学生の奨学金支給額の月額を2万円なり、3万円に減らすとしても、支給中の奨学生の金額を下げることはできません。いずれにしても、毎月・毎期の支援金の受け付け額から判断することになるでしょう。その判断は、新規募集締め切りの半年前には決定しなければなりません。当協議会として、その対応のために小委員会を立ち上げ、毎年10月には次期入学者（翌年4月）への対応を決定したいと思います。

厳しい判断をせざるを得ない状況が訪れるかもしれま

(資料3) 第12期収支計算  
(21年7月1日～22年6月30日) (単位:円)

収入の部		
	前期繰越金	291,753,455
	支援金	43,859,422
	雑収入	103,992
	収入合計	335,716,869
支出の部		
(1) 奨学金	奨学金	79,500,000
	振込手数料	0
	小計	79,500,000
(2) 経費	設備費	0
	通信費	71,863
	振込手数料	0
	消耗品費	33,000
	会議費	0
	備品費	0
	雑費	11,000
	小計	115,863
	支出合計	79,615,863
	次期繰越金	256,101,006

せんが、私たちは被災直後に芽生えた思いを、最後までつなぎたいと思っています。新型コロナが収束しない中で、経済的に厳しいとは思われますが、「ロータリー希望の風奨学金」を最終年度まで継続できますよう、さらなるご支援をお願いいたします。

(資料4) プログラム開始から終了までの活動実績および予測

奨学生数は開始時の予測値に実績値を加味

	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30	'31	'32	'33
奨学生数	35人	80人	143人	161人	172人	176人	175人	173人	185人	194人	201人	168人	121人	118人	114人	111人	106人	107人	107人	107人	80人	53人	26人
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測	予測
奨学金	← 支給した期間												← 継続可能期間			← 募る必要のある期間							
	支給した金額												支援金残高			募る必要のある金額							
	8億950万円												2億5,610万円			3億6,480万円							

※管理運営費は約24万円/年程度と少額のため、ここでは含めていません。

※2022年6月30日時点 予測

#### 4) 皆さまからの声

私が事業に関わって11年。この間、奨学生とその家族からは、感謝だけでなく、未来に向かって生きようとする、力強い言葉を耳にしてきました。また、支援して下さるロータリアンたちの励ましに、希望の光を見いだしています。

当会では支援金が振り込まれた際、お礼状や領収書を届けるため、送金確認書をファクスやメールで事務局宛てに送ってくださるようお願いしていますが、その際に、コメントを添えていただくようお願いしています。そうしたコメントは毎月、各地区のガバナー事務所へ、「風のたより」としてお届けしていますが、前年度1年間に寄せられた、皆さまからの声の一部を、抜粋してご紹介します。  
(※文中のRC=ロータリークラブの略)

前田 茂さん(第2710地区・三次RC)

震災から11年目を迎えるに当たり、奨学金の立ち上げから関わった一人として感慨深い思いがあります。子どもたちの未来のために、微力ながらお役に立てればと思います。

菅原 寛さん(第2530地区・いわき小名浜RC)

今年も誕生日を迎えることができました。微力ですが応援します。

船橋東RC(第2790地区)

33年まで続く「東日本大震災」の被災遺児の奨学金事業が子どもたちの希望の一助になればと、親の気持ちで今後とも寄り添っていきたい。

上野 佳子さん(第2620地区・米山学友会)

20年前に東京臨海東RCでお世話になった元米山奨学生(中国出身)です。以前、奨学金支援の動画を拝見して、感動しました。微力ながら、寄付させていただきたいと思います。

境 真樹さん(第2590地区・横浜あざみRC)

チャリティーコンサートでの収益金、および寄付金を送らせていただきます。

宇都宮90RC(第2550地区)

昨年末のクリスマス家族会で物品を持ち寄り、チャリティーオークションを行いました。その時の収益金を今年も贈呈いたします。

下館RC(第2820地区)

被災者の方々の学びが、経済的理由で阻害されることがないように、心ばかりの支援をさせていただきます。

中川 正明さん(第2570地区・東松山RC)

“希望の風”が絶えないよう、微力ながら応援します。

山田 珠子さん(第2790地区・元佐倉RC会員)

奨学金事業の趣旨などを耳にし、大変感動しつつも、寄付は一度だけでした。85歳で退会した後も、ずっと気にかかっていました。このたび、一個人として関わると知り、送金させていただきます。教育は希望です。

#### 連絡先

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会  
〒104-0031  
東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館1階  
国際ロータリー第2580地区ガバナー事務所内  
Tel: 03-5250-2050 Fax: 03-5250-2050  
Eメール: r.kibounokaze@wave.plala.or.jp

#### 支援口座(口座名義)

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会  
千葉銀行 銚子支店 普通 3549340